

# 平成27年度 農畜産物生産者大会 特集

## 平成27年度 J Aあきた白神農畜産物生産者大会

複合経営化を推進し、安全・安心な農畜産物の生産振興に励む

J Aあきた白神(佐藤謙悦組合長)と青果物振興連絡協議会(山谷初男会長)による、平成27年度農畜産物生産者大会が2月23日、能代市のプラザで開催され、優良生産者の表彰や販売実績、平成28年度の計画が報告されたほか、農畜産物の生産振興に向けた大会宣言が採択されました。

同大会には、生産者やJ A・市場関係者など約230名が参加。はじめに佐藤組合長が「今年度から稼働した園芸メガ団地では、県内初となる初年度にして販売額1億円を達成。さらには、長年目標にしていた白神ねぎ販売額10億円も達成できた。一方、昨年10月にはT P P大筋合意、国会での改正農協法の成立など、日本農業の将来を大きく左右する政治決着がされ、農業への影響を懸念している。当J Aとしては、

しっかり前を向き、今後の農業の在り方を考え、持続可能な農業経営の実現を図るため、複合経営をより一層推進し、農業振興による地域経済の安定的な発展に貢献していく」と挨拶しました。

続いて山谷会長が「春作業は順調に進んだものの、その後は降水量が少なく、異常な干ばつが長く続き栽培管理に苦労した年だった。このような中でも生産者の方々は、異常な天候に素早く対応し、被害を最小限に食い止め、出荷に励んでくれた。生産者同士知恵を出し合い、さらなる耕畜連携で豊かな農業経営を勝ち取りたい」と今後に向けて抱負を語りました。

平成27年度の販売実績は、48億866万円の販売額を見込んでいます。また、平成28年度の販売計画では、農畜産物販売高50億6284万円達成を目指し、他産地に勝る高品質な農畜産物の出荷と、天候に左右されない生産技術の確立により有利販売を勝ち取り、消費者が求める安全安心な産地づくりを務めることなどを大会宣言し、満場一致で採択されました。

続いて山谷会長が「春作業は順調に進んだものの、その後は降水量が少なく、異常な干ばつが長く続き栽培管理に苦労した年だった。このような中でも生産者の方々は、異常な天候に素早く対応し、被害を最小限に食い止め、出荷に励んでくれた。生産者同士知恵



↑生産者の力を合わせ、白神ブランドのさらなる向上を目指す必要性を話す山谷会長